

基本練習問題 7-2

<解答>

製造間接費	
間接材料費	421,600
間接労務費	658,900
間接経費	734,500
[製造間接費配賦差異] (10,200)	
〔 仕 掛 品 〕 (1,825,200)	

製造間接費配賦差異	
	[製造間接費] (10,200)

売上原価	
	[製造間接費配賦差異] (10,200)

予 算 差 異 : 26,020 円 (貸方差異)

操 業 度 差 異 : 15,820 円 (借方差異)

【解説】

資料 1 より変動費率（製造間接費予定配賦率の変動費部分）は明らかになっているが、固定費部分は明らかになっていないので、次のように計算する。

$$1,073,500 \div 950 = 1,130 \text{ 円/時}$$

これより、製造間接費の予定配賦額は次のように計算される。

$$(820 + 1,130) \times 936 = 1,825,200 \text{ 円}$$

一方で当月の製造間接費実際発生額は間接材料費、間接労務費及び間接経費の合計より
 $421,600 + 658,900 + 734,500 = 1,815,000 \text{ 円}$ となる。

製造間接費配賦差異は $1,825,200 - 1,815,000 = 10,200$ で予定配賦額 > 実際配賦額だから、製造間接費配賦差異は 10,200 円の貸方差異である。

なお、製造間接費配賦差異が貸方差異であるから、売上原価からは製造間接費配賦差異の金額を控除することになる。したがって、売上原価勘定の貸方に製造間接費配賦差異 10,200 円を記入する。

また、当月の月間予定直接作業時間 950 時間とは基準操業度のことだから、製造間接費の差異分析を行うために必要な図を描くと次のようになり、操業度差異は 15,820 円の借方差異とわかる。

基本練習問題7-2(変動予算)

予定配賦率 変動費部分 820円/時	予定配賦額 767,520円 936×820	X
予定配賦率 固定費部分 1,130円/時	予定配賦額 1,057,680円 $936 \times 1,130$	
0	実際操業度 936時間	基準操業度 950時間

製造間接費実際発生額、予定配賦額及び操業度差異を★式に代入して予算差異を計算すると次のようになる。正の値であれば貸方差異、負の値であれば借方差異となる。

$$\begin{aligned}
 \text{予算差異} &= \text{製造間接費予定配賦額} - \text{操業度差異} - \text{製造間接費実際発生額} \cdots \star \\
 &= (767,520 + 1,057,680) - (-15,820) - 1,815,000 \\
 &= 26,020
 \end{aligned}$$

(答) 予算差異：26,020 円の貸方差異

※テキスト本文では紙幅の関係で省略しているが、図によって予算差異を簡単に算定することもできる。ただし、この図は操業度差異が借方差異の場合のみ使うことができる点に注意が必要である(操業度差異は99%が借方差異なので、ほぼすべての問題に使うことができると考えてよい)。

予定配賦率 変動費部分 820円/時	予定配賦額 767,520円	X
予定配賦率 固定費部分 1,130円/時	予定配賦額 1,057,680円	
	操業度差異 15,820円 (借方差異)	

$ \begin{aligned} \text{予算差異} &= \text{青点線枠} - \text{実際発生額} \\ &= (767,520 + 1,057,680) \\ &\quad + 15,820 - 1,815,000 = 26,020 \end{aligned} $
